

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

856-124045-643-00 2005年11月 初版



© NEC Corporation 2005  
NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。  
このマニュアルは再生紙を使用しています。

## 1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード×1
- フロントベゼル
- セキュリティキー (フロントベゼルに貼り付けられています)
- ラック搭載用取り付け部品 (ユーザーズガイド\*1参照)
- Yケーブル(KB/MS用)
- ソフトウェアパッケージ一式 (バックアップCD-ROM\*1を含む)
- EXPRESSBUILDERパッケージ\*2
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1) (DianaScopeのライセンス)
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

**重要** 添付のCD-ROMは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

\*1 バックアップCD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

\*2 EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

## 2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルです。

<バックアップCD-ROM>:\nec\doc\mw500d Ug.pdf

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項やStartup Guideでは記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな?」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

**ヒント** PDFファイルを閲覧するためには、Adobe 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます (<http://www.adobe.co.jp>)。



製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます (<http://nec8.com/> → [サポート情報] をクリックしてください)。

## 3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックか、卓上に設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

**重要** ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

以下の環境条件を満たした場所

- <動作時>
  - 室内温度: 10℃~35℃\*
  - 湿度: 20%~80%
  - 温度勾配: ±10℃/階
  - 気圧: 749~1040hpa
- <休止時>
  - 室内温度: 5℃~40℃\*
  - 湿度: 10%~80%
  - 温度勾配: ±15℃/階
  - 気圧: 749~1040hpa

\* 室内温度15℃~25℃の範囲が狭くなる場所での使用をお勧めします。

腐食性ガスの発生する環境で使用しない

前後1m以上、左右60cm以上、高さ40cm以上のスペースがとれる場所

複数のラックを設置するときは必ず連結させる

スタビライザを取り付ける

添付の電源コードが届く範囲にあるコンセントまたはUPS

AC100V、平行二極アース付きのコンセントまたはUPS

水平でじょうぶな床の上

**安全に関するご注意**

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意 -必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

**警告**

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が降り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

**注意**

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

## 4 本体を取り付ける

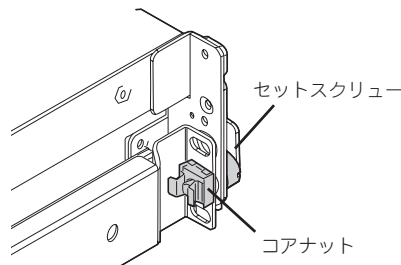
本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

**重要** ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

- 1 本装置の添付品から、M5ネジ(8本)とM5コナナット(10個)を用意する。



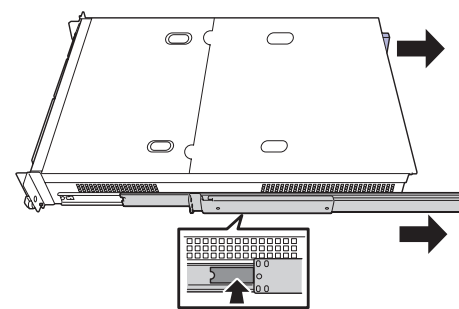
- 2 本体前面部の両側にあるセットスクリューを回して、裏側に取り付けられているコナナットを取り外す。



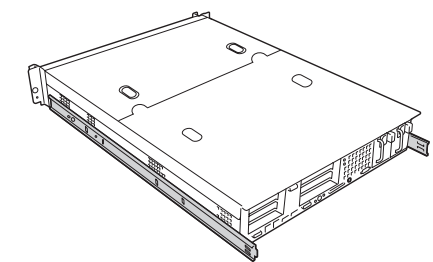
本体の運搬時にスライドレールが外れないようにセットスクリューとコナナットで固定されています。ラックへの取り付け前に左右に付いているコナナットを取り外してください(コナナットを手でしっかりと持ちながらセットスクリューを回してください)。

- 3 本体左右に取り付けられているレールアセンブリを取り外す。

取り外しの途中でレールがロックされます。リリースレバーを押して、ロックを解除しながら装置後方へスライドさせてレールを取り外してください。



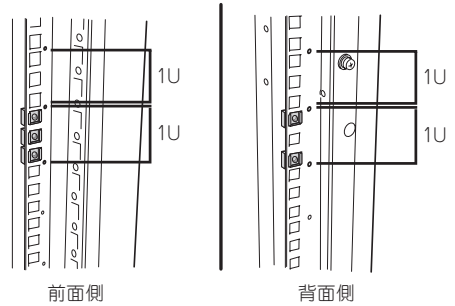
レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。



レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

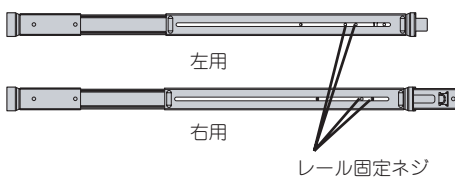
レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

- 4 ラックの前後のマウントフランジにコナナットを取り付ける。



コナナットは前面側に各3個、背面側に各2個を取り付けます。本体はラックの「2U」分の高さを使用します。レールアセンブリは2Uのうち、下側の1Uに固定します(ラックのフランジ部には1U単位に刻印などの印があります)。

- 5 レールアセンブリの形状を見て、右用と左用を確認する。

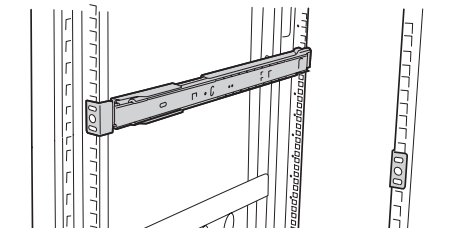


- 6 レールアセンブリのレールを固定しているネジをゆるめる(手順⑤の図を参照)。

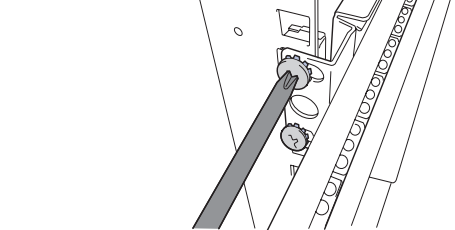
ラックの奥行きに合わせて長さを調節するためです。

- 7 コナナットを取り付けた場所にレールのフレームを合わせる。

コナナットとレールのフレームでラックのフレームを挟むように位置させ、レールの長さを調節してください。



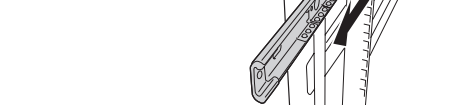
- 8 前面と背面をネジで固定する(各2本)。



- 9 レール固定ネジを固定する。

- 10 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

途中で「カチッ」と音がしてロックされます。

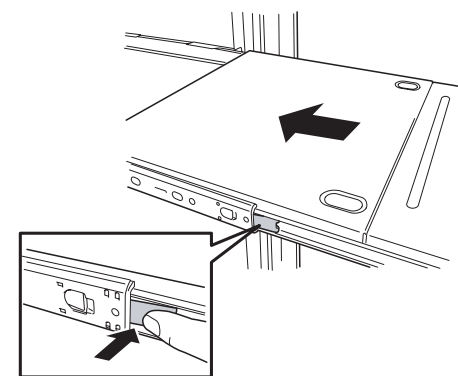


- 11 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるリリースレバー(左右にあります)を押しながらゆっくりと押し込みます。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。



## 5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

クラスタ用ネットワーク/  
バックアップ用ネットワーク  
(任意)

2 eth1

1 eth0 社内LAN(必須)

最後にコンセントへ(必須)

添付の電源コード

オプションの電源ユニットに添付の電源コード

**重要** システムが割り振るLANポート番号(eth n・n=数字)は次のとおりです。

| オプションのNICなし | オプションのNICあり       |
|-------------|-------------------|
| - eth0: 1   | - eth0: オプションのNIC |
| - eth1: 2   | - eth1: 1         |
|             | - eth2: 2         |

また、デフォルトで通信用インタフェースとして割り当てられているポートは、eth0です(設定は初期セットアップの完了後、Management Consoleから変更することができます)。

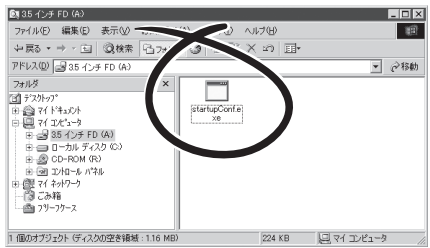
引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

# 6 初期導入設定用ディスクを作成する

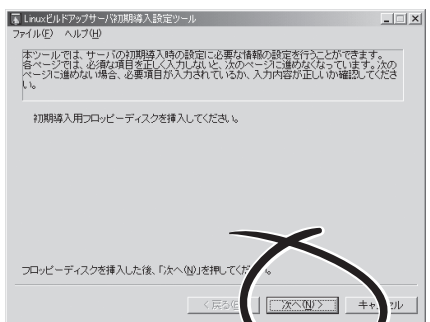
本装置を、Mail、Webサーバーとして運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「初期導入設定用ディスク」とWindows XP、またはWindows 2000が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「初期導入設定用ディスクの作成」を参照してください。

- 1 Windowsマシンを起動する。
- 2 フロッピーディスクドライブに添付の「初期導入設定用ディスク」をセットする。  
初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。
- 3 エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式が進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。



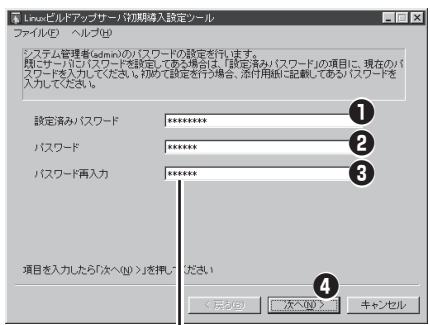
- 4 [次へ]をクリックする。



- 5 管理PCから本装置にログインする際の管理者(admin)パスワードを設定する。

ここで入力したパスワードは、管理者(admin)でログインする場合に必要となります。パスワードを忘れたり、不正に利用されたりしないように、パスワードの管理は厳重に行ってください。

- 1 初期状態では、本装置に添付の「root/パスワード」に記載されたパスワードを入力する。
- 2 パスワードを設定する。
- 3 2で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
- 4 [次へ]をクリックして次に進む。

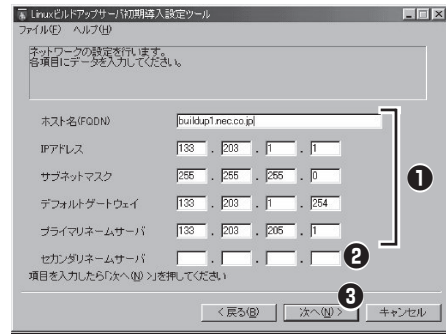


パスワードは画面に表示されない(\*で表示される)ため、タイプミスのないように注意する

- 6 ネットワークの設定をする。

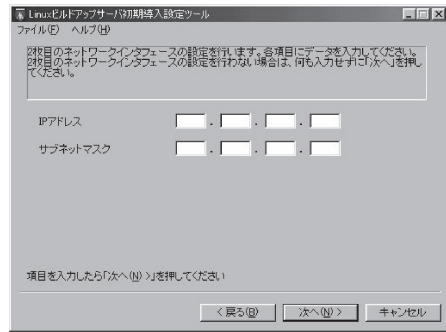
ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。

- 1 タイプミスのないように入力する。
- 2 セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
- 3 [次へ]をクリックして次に進む。

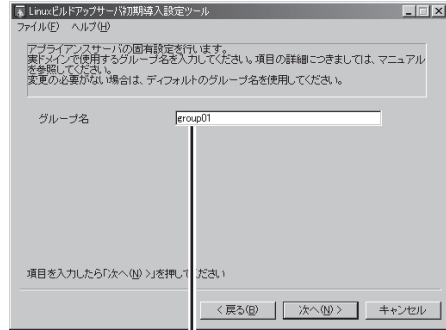


- 7 ネットワークの設定をして[次へ]をクリックする。

ここで設定する情報はLANポート2(システムからはeth1ポートとして扱われます)に対するものです。フェイルオーバークラスタ構成で運用する場合のみ設定します。



- 8 実ドメインのグループを設定し、[次へ]をクリックして次に進む。



1文字目は英数字、2文字目以降は英数字とハイフンからなる最大15文字の全小文字

<指定できない文字列>

adm、admin、apache、bin、canna、daemon、dip、disk、floppy、fml、ftp、games、gopher、kmem、ldap、lock、lp、mail、mailnull、man、mem、named、news、nfsnobody、nobody、nscd、ntp、pcap、root、rpc、rpcuser、rpm、slocate、smb、smbguest、smsgsp、sshd、sys、tty、users、utmp、uucp、vcsa、wbmc、webalizer、webdef、wheel、wnn、xfs

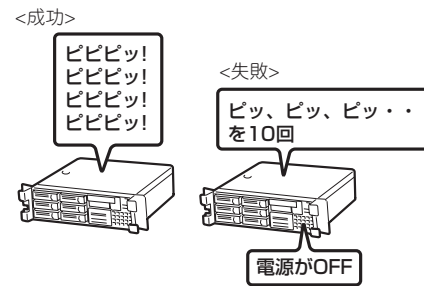
# 7 初期導入設定情報をロードする

初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

- 1 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とLANポート2コネクタ(eth1)がLANケーブルによりネットワーク環境として使用するHUBに接続されていることを確認する。
- 2 ステップ6で作成した初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
- 3 本体の電源をONにする。

セットアップを開始します。2~3分ほどで完了します。

セットアップに成功すると、「ビビビッ」と3連続のピーブ音が4回鳴ります。失敗した場合は、1秒間隔のピーブ音が10回鳴ります(また電源が自動的にOFFになります)。



- 4 フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、初期導入設定用ディスクを取り出す。
- 5 Windowsの「メモ帳」などを使って、初期導入設定用ディスク内のログファイル(logging.txt)を開く。

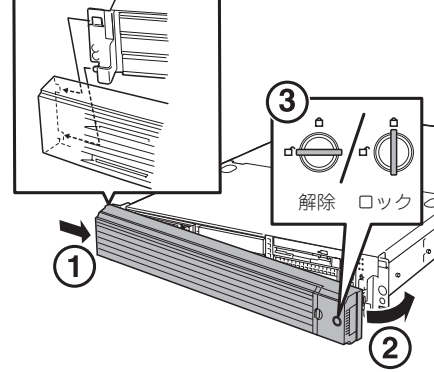
ログファイルに「Info: completed.」と出力されていたらセットアップは正常に完了しています。

それ以外の出力(ログ)がある場合は、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」または7章を参照してトラブルの解決を試みてください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。

- 6 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

セキュリティキーは大切に保管してください。

ツメをフレームに引っかける



# 8 システムにログインし、各種設定をする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

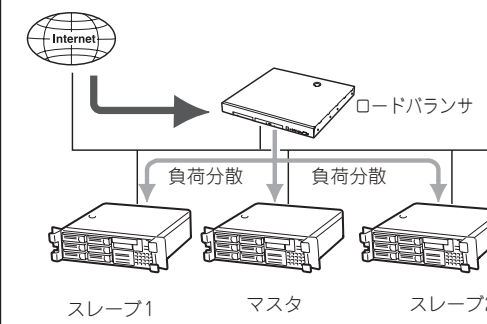
- 1 クライアントPC上でWebブラウザを起動する。
- 2 Webブラウザの設定を確認する。
  - プロキシを経由させない
  - キャッシュ機能を使用しない
- 3 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
- 4 [システム管理者ログイン]をクリックする。
- 5 ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。  
管理者用のトップページが表示されます。



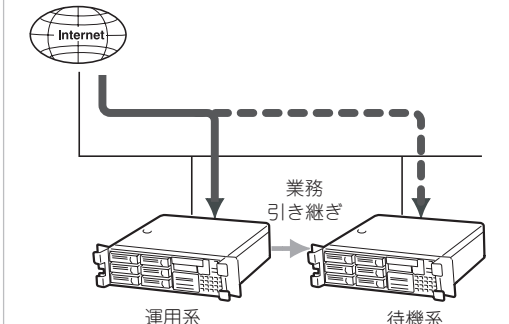
Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

また、下図のようなクラスタ構成を構築する場合は、3章を参照しながらManagement Consoleからセットアップをしてください(フェイルオーバークラスタ構成時には、別売のCLUSTERPRO LEが必要です)。

ロードバランスクラスタ構成



フェイルオーバークラスタ構成



# 9 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCDにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。<バックアップCD-ROM>:/nec/Linux/esmpro.sa/doc/users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

# 10 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの5章を参照してください。

【セキュリティパッチの適用について】

http://www.express.nec.co.jp/care/index.htmlに最新のセキュリティパッチがあります。定期的に参照し、適用してください。

以上で完了です。